
詩集：恋

草野悠次郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩集：恋

【Nコード】

N1152C

【作者名】

草野悠次郎

【あらすじ】

詩集：恋実話を元にしたフィクションとフィクションのコラボレーション。十好き十他4話

詩集

十好き十

十花十

十キス十

十雨十

十月十

十好き十

久しぶりに君からメールが来た…。
別れてから約1ヶ月が過ぎて。

ボクは、このあいだ君にメールした。
君から返信は来なかったけど…。

今日、母校の運動会があつて、行ったかどうか君にメールした。そ
したら、受信ボックスに君の名前が…

ドキリとした。

高鳴る心臓の音が止まらない。

君からのメールを開けてみる。すると、『行った。』と短い返事。

こんな、短い返事なのに…

こんな、素っ気ない返事なのに…

何故だかこんなに嬉しい。

何故だかこんなにドキドキした。

嬉しくって！嬉しくって！

もう、どうにもならなかった。

まだ、好きなんだ。

好きで、好きで、好きすぎて…

そう思う自分が懐かしくって、許せなかった。

ボクから別れ話をしたのに、嫌な奴だと思っし嫌な奴だと思われてもいい。

けど、ボクはボクなりに考えて君と別れた。

学校が違うから…

きつと、君はボクよりいい人を見つけるだろう。

ボクより好きな人を見つけるだろう。

そう思った。

そう思うと君にはボクは居ない方がいいと思った。

だから、別れた。

…うつんうつん。これはただの綺麗ごとだ。

君から別れようと言われなくなかったから…

君の口から好きな人出来たって言っ欲しくなかったから…

だから、君がまだ好きなボクは君と別れた。

ボクはまだ、君が好きだ。

好きで、好きで、好きすぎて、もつとっしよつもないくらい…

君は何かあったらメールしていいと言った。

ボクの思いが変わらないことを君に伝えたら君はどうするだろう。

君はどんな風に思うだろう。

気持ちを知ってくれればいい。

なんてボクはもう思えなくなった。

ボクの気持ちを知って君はどう思うかをボクは知りたい。

ボクは君が好き。

だから、君の気持ちが知りたい。

君はボクのことどう思っているのか…。

ボクにまた振り向いて欲しい。

ボクにまた笑顔を見せて欲しい。

ボクにまた話かけて欲しい。

好き。

ボクは君が…

君だけが…

好き。

十花十

視界のはじで笑っているキミを見ると、枯れてしまいそうな花を見ているように思える。

悪戯に時間を過^ごしているキミ。

そんなキミを守ってやりたいと思いだめたのはいつからだろう。キミという花を枯らさないように…

キミという花を見つめている時間が増えていく…

キミが好きだと気付いた時、許せないと思う反面なぜかホツとした。

キミから好きだと言ってくれた時、嬉しかった。嬉しくて、嬉しくて…

キミを枯らさないようにどうすればいいのかわからなくて…

いろんなことをした。

キミが望むこと。

キミが願うこと。キミの頼みならなんでも聞いた。

そつする内にキミが枯れていくのを見た。

俺は間違ったことをしたかい？

俺はキミの嫌なことをしたかい？

キミがいなくなってしまうたら…
俺は…

俺はどうすればいい？

俺はキミが……

キミが…

枯れていくキミという花に…

俺は優しく包んで、キスをした。

枯れていたキミという花がまた天へと伸びていく。

十キス十

あなたのキスはとてもロマンチック…

だけど…

今、誰とメールしてるの？

何そんなに笑ってるの？

にやけすぎだよ！

逆に気持ち悪いから！

ちよつと？

あれ？どこ行くのよ！

トイレ？ああ、そう！
何？……怒ってるかって？
当たり前じゃない！
やっと会える日なのにあんたずっとメールしてるし！返事とかろくにしないし！
何よ、………ちょ！近い近い！
ん！／／／

貴方の不意打ちは私を再起不能にするくらいロマンチック…

十雨十

傘の中の茶色の長い髪が歩くことに揺れている。
名前を呼べば振り向いて笑顔を見せて、駆け寄って僕を傘に入れてくれる。

傘、持ってくればいいのに。

お前のソプラノ声がかすぐすくたくたくて心地よかった。

持ってくるのが面倒なんだよ。

僕はお前の持っている傘を手にとった。

ムウー…

少しふくれているお前が可愛くって愛しかった。
大好きだと思った。

僕はお前を抱きよせ耳元でお前にしか聞こえない声で言ってみた。

大好きだよ。

6月に降る雨は優しく僕らに降り注ぐ。

十月十

丸い月が笑う。

蒼白い光を放ちながら。

月の光は、太陽の光より優しく輝く。君に似た光を放つ。
優しい光。

俺は君を守ってやれなかった……

俺は君を愛していた。その気持ちは今も変わらない。
天を見上げるとそこにはただ丸い月が笑うだけ……

(後書き)

どうも、草野悠次郎です。今回は恋をテーマにしてみました。最後まで読んでいただきありがとうございます。< (. .)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1152c/>

詩集：恋

2010年10月21日23時31分発行